

**Oracle® Enterprise Single Sign-on
Logon Manager**

インストレーションおよびセットアップ・ガイド

リリース11.1.1.2.0

B62259-01

2010年11月

ORACLE®

Oracle Enterprise Single Sign-on Logon Managerインストールおよびセットアップ・ガイド, リリース11.1.1.2.0

B62259-01

Copyright ©2006-2010, Oracle. All rights reserved.

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。このドキュメントに誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebelは米国Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がります。

このプログラムは、第三者のWebサイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者のWebサイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

| | |
|--|----|
| 略語および用語..... | 4 |
| ESSO-LMについて | 5 |
| ESSO-LMのディスク・イメージの内容 | 6 |
| 64ビット (x64) ・システムでのインストール..... | 7 |
| 自動 (サイレント) インストールの前提条件..... | 8 |
| ESSO-LM Administrative Consoleのインストール..... | 9 |
| ESSO-LM Agentのインストール | 11 |
| 以前のバージョンからのアップグレード | 20 |
| 構成..... | 20 |
| ESSO-LMのアンインストール | 21 |

略語および用語

次のリストは、一般的に使用されている略語および用語を示します。

| 略語または用語 | 正式名称 |
|------------------------|---|
| Administrative Console | ESSO-LM Administrative Console |
| エージェント | Logon Manager |
| FTU | First Time Useウィザード |
| ESSO-AM | Oracle Enterprise Single Sign-on Authentication Manager |
| ESSO-Anywhere | Oracle Enterprise Single Sign-on Anywhere |
| ESSO-PG | Oracle Enterprise Single Sign-on Provisioning Gateway |
| ESSO-KM | Oracle Enterprise Single Sign-on Kiosk Manager |
| ESSO-LM | Oracle Enterprise Single Sign-on Logon Manager |
| ESSO-PR | Oracle Enterprise Single Sign-on Password Reset |

ESSO-LM について

Oracle Enterprise Single Sign-On Logon Managerを使用すると、デスクトップ、ネットワークおよびインターネット上のパスワードで保護されたすべてのアプリケーションに対して、パスワードを1回入力するだけでログインできるようになります。ESSO-LMの使用には、プログラミングやネットワーク・インフラストラクチャの追加は必要ありません。ESSO-LMはそのまま動作し、Windows、Web、プロプライエタリ、ホスト、メインフレームなど、ほぼすべてのアプリケーションに対応します。ESSO-LMインストールガイドおよびセットアップ・ガイドでは、ESSO-LMのインストール方法と設定方法について説明します。

このマニュアルは、ESSO-LMの計画、実装およびデプロイメントを担当する、経験豊富な管理者を対象としています。このマニュアルでは、ESSO-LM Administrative ConsoleおよびESSO-LM Agentをインストールおよび構成する手順を説明します。

管理者は、パスワード・ポリシー、ログオン方式、資格証明共有グループ、アプリケーション構成など、シングル・サインオンの概念を理解します。ディレクトリ・サーバー、データベースおよびリポジトリの構成を熟知している必要があります。また、インストールおよび構成手順を実行する担当者は、組織のシステム標準を熟知している必要があります。読者は、セキュリティ管理における定型業務を実行できる必要があります。

ESSO-LM のディスク・イメージの内容

ESSO-LMのディスク・イメージの内容は、次のとおりです。

- **ドキュメント**。ESSO-LMの使用を開始するためのドキュメントが含まれています。追加の最新ドキュメントは、[Oracle Webサイト](#)で入手できます。
- **SSO Admin Console**。ESSO-LM Administrative ConsoleインストーラがEXEおよびMSI形式で含まれています。
- **SSO Agent**。ESSO-LM AgentインストーラがEXEおよびMSI形式で含まれています。
- **ユーティリティ**。補助的なソフトウェアと、未サポートのESSO-LMトラブルシューティング・ツールが含まれています。

内容は次のとおりです。

- **Java 1.1 (フォルダ)**。Java Runtime Environment (JRE) バージョン1.1 (Oracleではすでにサポートされてない) で動作させるように設計されている未サポートのレガシーJava Helper Object (JHO) が含まれています。
- **dotnetfx20.exe**。Microsoft .NET 2.0 Frameworkインストーラ。ご使用のマシンに.NET Frameworkバージョン2.0以上がインストールされていない場合は、エージェントおよびコンソールを実行するために、このパッケージをインストールする必要があります。
- **isscript1150.msi**。再頒布可能なWindows Installer InstallScript。ご使用のマシンにこのパッケージがインストールされていない場合は、エージェントおよびコンソール・インストーラを実行するために、このパッケージをインストールする必要があります。
- **SSOHiddenWindowResponse.exe**。Hidden Window Responseユーティリティ。このユーティリティを使用すると、ESSO-LMでは、ウィンドウのタイトルおよびクラスに基づいて非表示のアプリケーション・ウィンドウを検出できます。
- **ssoSCDetect.exe**。スマート・カード検出ツール。スマート・カード認証を使用したログオンでの問題をトラブルシューティングする場合に、挿入されたスマート・カードがESSO-LMで認識できるかどうかを判断するためにこのツールを実行します。
- **TraceController.exe**。トレース・コントローラ・ユーティリティ。このユーティリティを使用して、ESSO-LMおよび他のOracle Accelerator Suiteアプリケーションでのトレース・ロギングを有効にして管理します。
- **vcredist_x86.exe**。Microsoft Visual C++ 2008ランタイム・ライブラリ・インストーラ。ご使用のマシンにこの再頒布可能なパッケージがインストールされていない場合は、エージェントおよびコンソールを実行するために、このパッケージをインストールする必要があります。
- **ESSO-LM Event Viewer.exe、ESSO-LM Event Viewer.msi**。EXEおよびMSI形式のESSO-LM Event Viewer。これらのパッケージによって、Windowsイベント・ビューアでESSO-LMイベントを表示するために必要なメッセージング・ライブラリをインストールおよび登録できます。

64 ビット (x64) ・ システムでのインストール

64ビット (x64) ・ システムにESSO-LMをインストールする場合は、_x64という接尾辞が付いた64ビット・インストーラを使用する必要があります。インストーラは64ビット・プラットフォーム用にコンパイルされていますが、ESSO-LMそのものは32ビット・アプリケーションであり、Windows-on-Windows 64ビット (WoW64) ・ エミュレーション・エンジンを介して実行され、Program Files (x86) 親ディレクトリにインストールされます。32ビット版のESSO-LMは、次に示すサポートされている64ビット・オペレーティング・システムと完全に互換性があります。

Oracleでは、次の64ビット・プラットフォームにおけるESSO-LMのインストールをサポートしています。

- Windows Server 2003
- Windows Server 2008
- Windows 7

自動（サイレント）インストールの前提条件

自動（サイレント）モードでのESSO-LMのインストールを成功させるためには、インストーラを実行する前に、Windows Management Instrumentation（WMI）サービスを実行しておく必要があります。

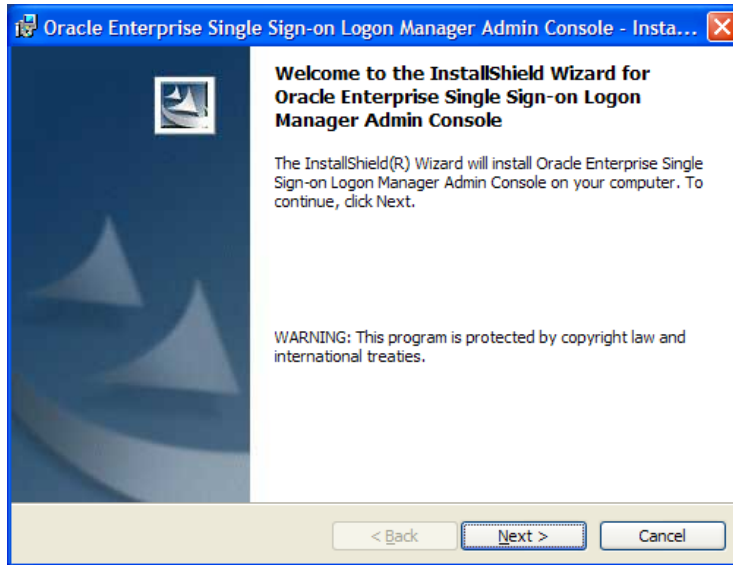
WMIサービスが実行されているかどうかを確認し、必要に応じて開始するには、各ターゲット・マシンで次を実行します。

1. システム管理コンソールを開きます。
2. サービス・スナップインを開きます。
3. Windows Management Instrumentationサービスにナビゲートし、その状態とスタートアップの種類を確認します。
4. 状態に応じて、次のいずれかを実行します。
 - 状態が「開始」である場合は、WMIサービスが実行中です。次の項に進んでください。
 - 状態が空白である場合は、サービスのスタートアップの種類を確認し、次のように開始します。
 - スタートアップの種類が「無効」である場合は、次を実行します。
 - a. サービスをダブルクリックします。
 - b. 表示されたダイアログ・ボックスで、ご使用の環境に応じて、スタートアップの種類を「**手動**」または「**自動**」に変更します。
 - c. 「**適用**」をクリックします。
 - d. 「**開始**」をクリックして、サービスを開始します。状態が「開始」に変わります。
 - スタートアップの種類が「無効」でない場合は、次を実行します。
 - a. サービスをダブルクリックします。
 - b. 表示されたダイアログ・ボックスで、「**開始**」をクリックしてサービスを開始します。状態が「開始」に変わります。
 - c. 「**OK**」をクリックします。
 - 5. 「**OK**」をクリックして、サービスのプロパティのダイアログ・ボックスを閉じます。

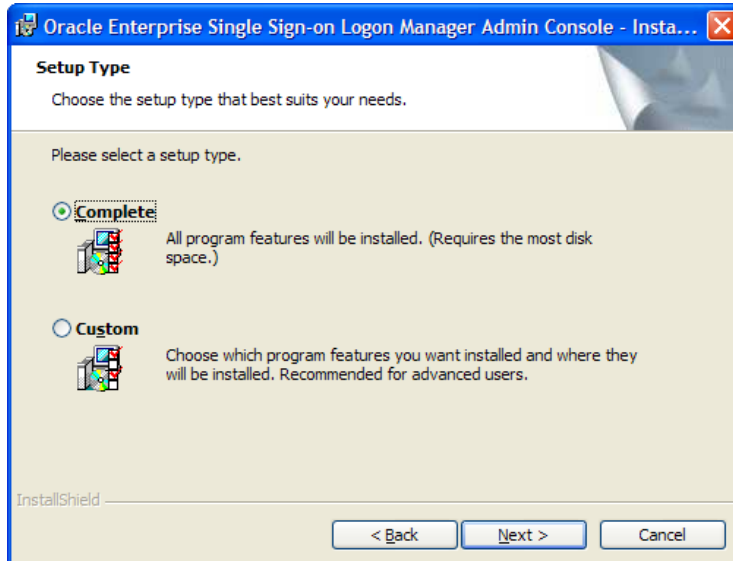
ESSO-LM Administrative Console のインストール

ESSO-LM Administrative Consoleをインストールおよび構成するには、次の手順を実行します。

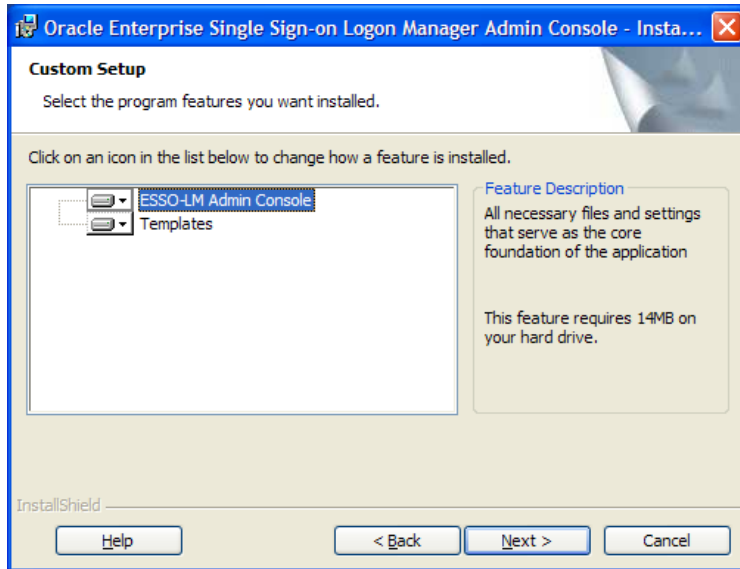
1. すべてのプログラムを閉じます。
2. CD-ROMドライブにESSO-LMインストール・メディアを挿入します（または、共有ネットワーク・ドライブからインストールを開始します）。
3. 「Welcome」パネルで、「Next>」をクリックします。



4. セットアップ・タイプを選択します。「Complete」オプションでは、すべてのプログラム機能がインストールされます。「Custom」オプションでは、インストールするプログラム機能およびインストール場所を選択できます。カスタム・インストールを実行する場合は、[手順6](#)に進みます。そうでない場合は、[手順7](#)に進みます。



5. カスタム・セットアップを実行する場合は、次のインストール・オプションから選択します。終了したら、「Next」をクリックします。



ESSO-LM Agent のインストール

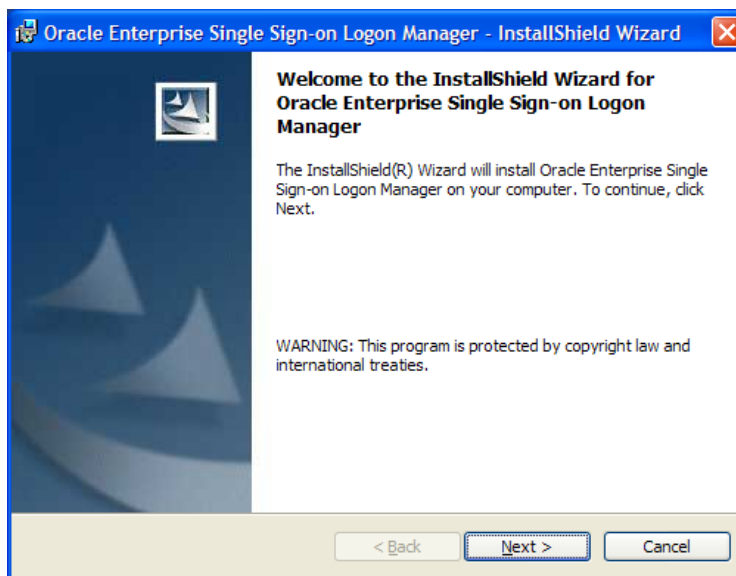
ESSO-LM Agentをインストールおよび構成するには、次の手順を実行します。

1. すべてのプログラムを閉じます。
2. CD-ROMドライブにESSO-LMインストール・メディアを挿入します（または、共有ネットワーク・ドライブからインストールを開始します）。

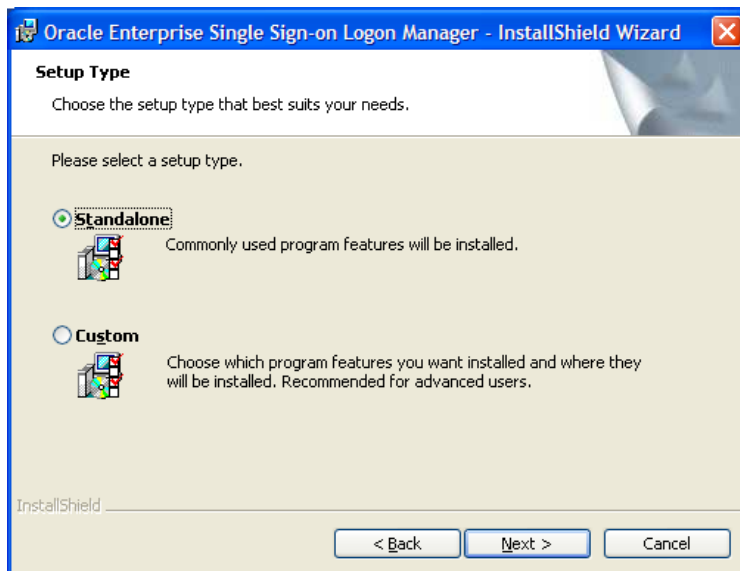


64ビット・システムにインストールする場合は、ファイル名に_x64という接尾辞が付いた64ビット・インストーラを使用します。32ビット・システムにインストールする場合は、（ファイル名に_x64という接尾辞が付いていない）32ビット・インストーラを使用します。

3. 「Welcome」 パネルで、「Next>」をクリックします。

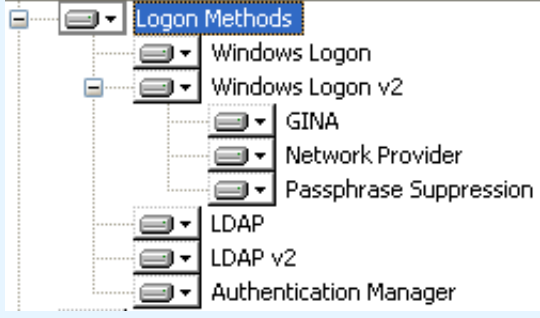




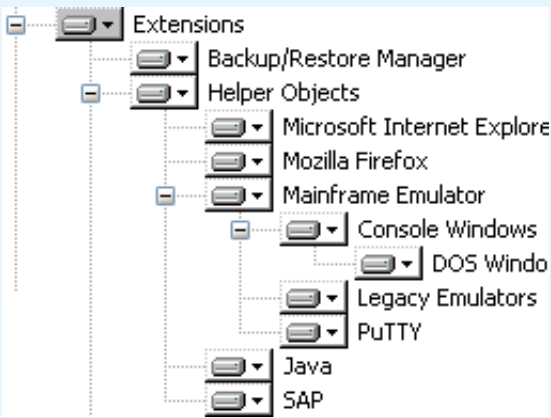
4. セットアップ・タイプを選択します。「Standalone」タイプでは、一般的に使用されているプログラム機能がインストールされます。「Custom」オプションでは、インストールするプログラム機能を選択できます。カスタム・インストールを実行する場合は、手順6に進みます。そうでない場合は、手順7に進みます。

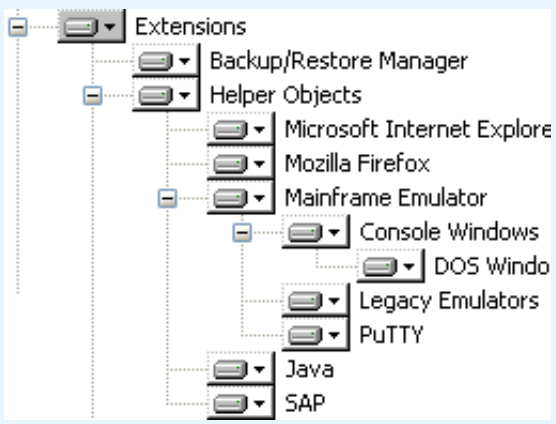



5. カスタム・セットアップを実行する場合は、次のインストール・オプションから選択します。

| Application | |
|---|--|
| <p>(2607KBの領域が必要)</p> <p>このオプションによって、アプリケーションの中心基盤として機能する、すべての必須ファイルおよび設定がインストールされます。</p> | |

| Logon Methods | |
|--|---|
| <p>(512バイトの領域が必要)</p> <p>ESSO-LMにログオンするための様々な方法を提供するプラグインです。デフォルトでは、Windows Logonがインストールされます。使用可能なプラグインは次のとおりです。</p> |  |
| <p>Windows Logon (77KBの領域が必要)</p> | <p>WindowsへのログオンによってESSO-LMへのログオンを可能にするプラグイン。(72KB)</p> |
| <p>Windows Logon v2 (109KBの領域が必要)</p> | <p>WindowsへのログオンによってESSO-LMへのログオンを可能にするプラグイン。このプラグインには、セキュアなパスワードとGINAサポートも含まれています。(109KB)</p> |
| <p>GINA (117KBの領域が必要)</p> | <p>Windowsドメインのログオン方式と連携して動作するGINAモジュール。(104KB)</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin-top: 10px;">  「GINA」または「Network Provider」のいずれかを選択する必要があります。両方の方法をインストールすることはできません。 </div> |
| <p>Network Provider (339KBの領域が必要)</p> | <p>Windowsへのログオン時、デスクトップのロック解除時、またはWindowsパスワードの変更時に、二重認証を回避します。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin-top: 10px;">  「Network Provider」または「GINA」のいずれかを選択する必要があります。両方の方法をインストールすることはできません。 </div> |
| <p>Passphrase Suppression (28KBの領域が必要)</p> | <p>ユーザーのSIDを戻す2つ目の認証方式を使用して、対話型のパスワード認証をバイパスします。</p> |
| <p>LDAP (152KBの領域が必要)</p> | <p>LDAPディレクトリへのログオンによってESSO-LMへのログオンを可能にするプラグイン。(116KB)</p> |
| <p>LDAP v2 (121KBの領域が必要)</p> | <p>LDAPディレクトリへのログオンによってESSO-LMへのログオンを可能にするプラグイン。このプラグインでは、セキュアなパスワードもサポートされます。(93KB)</p> |
| <p>Authentication Manager (65KBの領域が必要)</p> | <p>この機能により、ユーザーの認証に複数のログオン方式を使用できるようになります。(61KB)</p> |

| Extensions | |
|--|--|
| <p>(1762KBの領域が必要)</p> <p>これは、SSOアプリケーションの機能を強化および拡張するプラグインです。デフォルトでは、Backup/Restore Manager、Logon ManagerおよびSetup Managerがインストールされます。使用可能なプラグインは次のとおりです。</p> |  |
| <p>Backup/Restore Manager (80KBの領域が必要)</p> | <p>このプラグインによって、ウィザード・インタフェースを介した簡単なファイル・ベースのバックアップとリストア・メカニズムが提供されます。</p> |

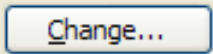
| Helper Objects | |
|--|--|
| <p>(278KBの領域が必要)</p> <p>これらのプラグインによって、主要な資格証明管理、リクエストおよび配信インタフェースが提供されます。使用可能なプラグインは次のとおりです。</p> |  |
| <p>Microsoft Internet Explorer (236KBの領域が必要)</p> | <p>Internet ExplorerにSSOサポートを追加する拡張ヘルパー。</p> |
| <p>Mozilla Firefox (1509KBの領域が必要)</p> | <p>MozillaベースのブラウザにSSOサポートを追加する拡張ヘルパー。</p> |
| <p>Mainframe Emulator (117KBの領域が必要)</p> | <p>HLLAPIベースのエミュレータにSSOサポートを追加する拡張ヘルパー。</p> |
| <p>Console Windows (76KBの領域が必要)</p> | <p>ESSO-LMのメインフレーム・プラグインのコンソール・ウィンドウ (コマンド・プロンプト) のサポート</p> |
| <p>DOS Windows (4KBの領域が必要)</p> | <p>DOSウィンドウのサポート</p> |
| <p>Legacy Emulators (299KBの領域が必要)</p> | <p>HLLAPIベースの16ビットのレガシー・エミュレータのサポート</p> |
| <p>PuTTY (108KBの領域が必要)</p> | <p>ESSO-LMのメインフレーム・プラグインのPuTTYウィンドウのサポート</p> |
| <p>Java (355KBの領域が必要)</p> | <p>JavaアプリケーションにSSOサポートをネイティブに追加する拡張ヘルパー。</p> |
| <p>SAP (286KBの領域が必要)</p> | <p>SAPアプリケーションにSSOサポートを追加する拡張ヘルパー。</p> |

| Synchronizer Manager | |
|--|---|
| <p>(137KBの領域が必要) このプラグインによって、アプリケーションで同期の拡張機能を管理できます。使用可能なSynchronizerプラグインは次のとおりです。</p> |  |
| <p>Active Directory Synchronizer (116KBの領域が必要)</p> | <p>Active Directoryサーバーの資格証明および設定を格納し検索できるようにする同期プラグイン。</p> |
| <p>LDAP Synchronizer (152KBの領域が必要)</p> | <p>SUN Java System Directory ServerやeDirectoryなどのLDAP準拠ディレクトリの資格証明および設定を格納し検索できるようにするプラグイン。</p> |
| <p>ADAM Synchronizer (117KBの領域が必要)</p> | <p>ADAMサーバーの資格証明および設定を格納し検索できるようにする同期プラグイン。</p> |
| <p>File System Synchronizer (77KBの領域が必要)</p> | <p>ファイル共有の資格証明および設定を格納し検索できるようにする同期プラグイン。</p> |
| <p>Database Synchronizer (68KBの領域が必要)</p> | <p>データベースの資格証明および設定を格納し、検索できるようにする同期プラグイン。</p> |
| <p>Roaming Profile Synchronizer (57KBの領域が必要)</p> | <p>ローミング・プロファイルをサポートする同期プラグイン。</p> |


| Event Manager | |
|--|--|
| <p>(64KBの領域が必要) このプラグインによって、アプリケーションでイベント・ログの拡張機能を管理できます。使用可能なプラグインは次のとおりです。</p> |  |
| <p>XML File (36KBの領域が必要)</p> | <p>ローカルのXMLファイルへのイベント・ログをサポートするイベント管理プラグイン。</p> |
| <p>Windows Event Extension (57KBの領域が必要)</p> | <p>Windows Event Managerへのイベント・ログをサポートするイベント管理プラグイン。</p> |
| <p>Syslog</p> | <p>システム・イベントのロギングをサポートするイベント管理</p> |






| Event Manager | |
|---|--|
| (120KBの領域が必要) | プラグイン。 |
| Database Event Extension (84KBの領域が必要) | Database Event Managerへのイベントのロギングをサポートするイベント管理プラグイン。 |
| Reporting Extension (289KBの領域が必要) | レポート・サービスへのイベントのロギングをサポートするイベント管理プラグイン。 |

| Languages | |
|--|---|
| <p>エージェントを他の言語で表示できるようにするローカライズ済言語サポート・パッケージ。</p> <p>Chinese Simplified: 1948KB French: 1908KB German: 1912KB Italian: 1812KB Japanese: 2008KB Korean: 1980KB Portuguese: 1888KB Spanish: 1924KB English: 4364KB Dutch: 2020KB Czech: 2632KB Finnish: 2080KB Polish: 2064KB</p> |  |

| Change | |
|---|---|
| <p>このボタンをクリックすると、エージェントの現在のインストール先フォルダを変更できます。インストール先を選択し、「OK」をクリックします。</p> |  |


Help

「Help」ボタン  をクリックすると、「Custom Setup」のヒントが表示されます。各アイコンは、使用可能な機能の状態を示しています。

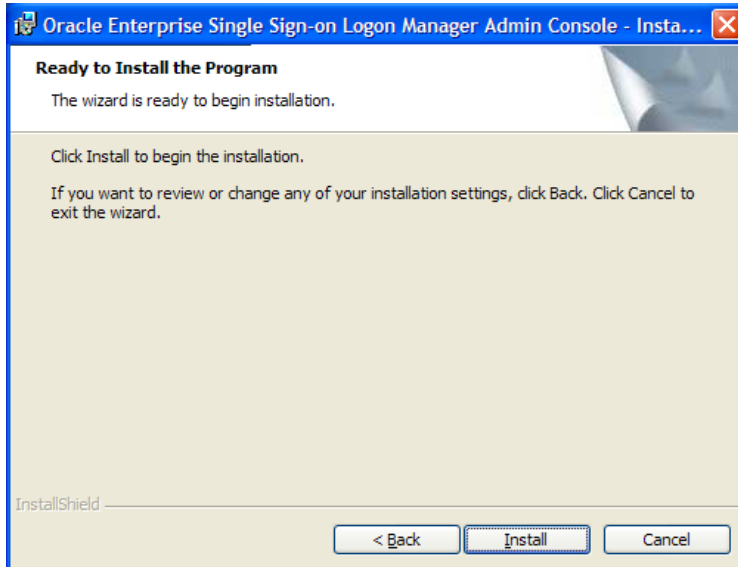
| Icon | Means the feature |
|---|---|
|  | Will be completely installed to the local hard drive. |
|  | Will have some subfeatures installed to the local hard drive. |
|  | Will not be installed. |
|  | Will be installed on first use. |
|  | Will be installed to run from the network. |

Space

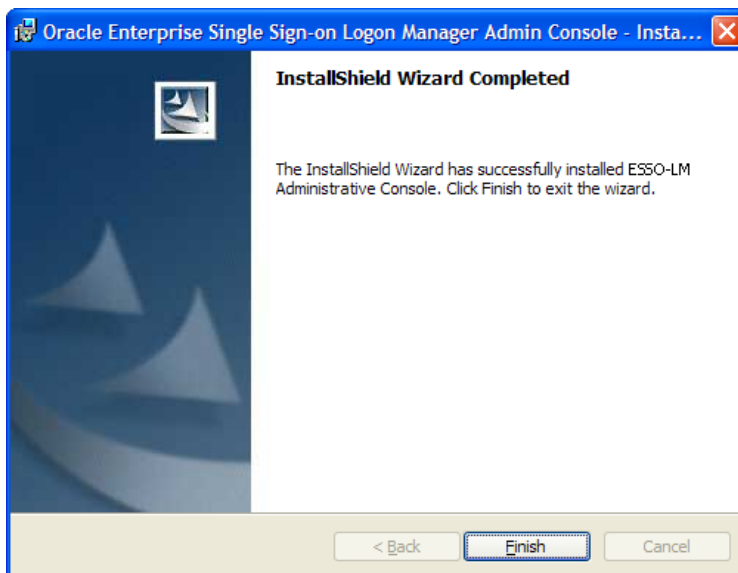
「Space」をクリックすると、選択した機能をローカル・サーバーにインストールするために必要なディスク領域要件が表示されます。「OK」をクリックします。


| Volume | Disk Size | Available | Required |
|--|-----------|-----------|----------|
|  C: | 93GB | 16GB | 23MB |
|  F: | 189GB | 177GB | 0KB |
|  Z: | 0KB | 0KB | 0KB |

6. InstallShieldウィザードで、インストールを開始する準備ができました。「**Install**」をクリックします。



7. インストールが完了するまで待機します。完了画面が表示されたら、「**Finish**」をクリックします。



8. Windows Authentication v2 SSO GINAをインストールしていない場合、ESSO-LMのインストールで再起動する必要はありません。SSO GINAをインストールした場合は、「**Finish**」をクリックすると、マシンの再起動が求められます。
9. ワークステーションまたはサーバーを再起動した後、ESSO-LMの「Welcome」画面および「First Time Use (FTU)」ウィザードが起動されます。画面の指示に従って、FTUウィザードを完了します。FTUが完了したら、ツール・トレイにアイコン  が表示されます。



FTUウィザードおよびESSO-LM Agentの詳細は、『Oracle Enterprise Single Sign-on Logon Manager ユーザー・ガイド』およびオンライン・ヘルプを参照してください。

以前のバージョンからのアップグレード

ESSO-LM 11.1.1.2.0へのアップグレードがサポートされているのは、次のバージョンのESSO-LMです。

- 10.1.4.1.0
- 10.1.4.0.5

バージョン11.1.1.2.0のESSO-LMのインストーラでOracleが完全にサポートしているのは、前述したESSO-LMの既存のインストーラ上へのインストーラです。新しいインストーラでは、古いバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンを自動的にインストールします。ESSO-LM AgentおよびESSO-LM Administrative Consoleのインストーラの詳細は、このマニュアルのトピックを参照してください。



ESSO-LM Administrative Consoleを使用して元のインストーラをカスタマイズした場合は、同じように新しいインストーラをカスタマイズする必要があります。これは、アップグレード前に行う必要があります。インストール前には、常に、すべてのデータをバックアップしておくことをお勧めします。

基本的なアップグレード手順

この手順は、ESSO-LM 11.1.1.2.0にアップグレードする場合の推奨される基本的な手順の概要です。

1. 既存の資格証明をバックアップします。
2. 「**ESSO-LM Administrative Consoleのインストール**」および「**ESSO-LM Agentのインストール**」に示すように、インストールを実行します。ESSO-LM AgentおよびConsoleは、どのような順序でもアップグレードできます。



ESSO-LM 10.1.4.0.5からアップグレードするWindows Vistaユーザーの場合

Windows VistaでESSO-LM 10.1.4.0.5からアップグレードするユーザーは、ESSO-LM 11.1.1.2.0インストーラを実行する前に、インストールCDのUtilityフォルダにあるMicrosoft Visual C++ 2008再頒布可能パッケージをインストールする必要があります。

インストーラによって、ESSO-LM 10.1.4.0.5からESSO-LM 11.1.1.2.0へのアップグレード中に、Microsoft Visual C++ 2008再頒布可能パッケージの存在が確認されます。再頒布可能パッケージがない場合は、次のエラー・メッセージが表示され、インストールは中止されます。

Prior to installing this product, you must install the Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable located in the utilities directory of the installation media.

この問題の技術情報については、次を参照してください。

<http://connect.microsoft.com/VisualStudio/feedback/ViewFeedback.aspx?FeedbackID=361951>

3. バックアップした資格証明を新しいインストールにリストアします。
4. インストーラが終了し、資格証明がリストアされたら、アップグレードは完了です。製品の新機能については、ESSO-LMのリリース・ノートを参照してください。

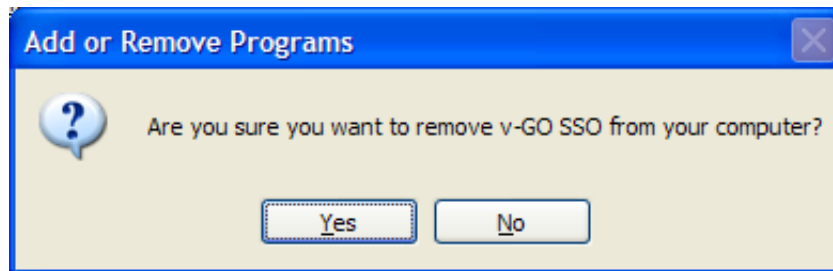
構成

Administrative Consoleを使用したESSO-LMの構成については、ESSO-LM Administrative Consoleのオンライン・ヘルプを参照してください。

ESSO-LM のアンインストール

ESSO-LMをアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」 → 「設定」 を選択し、「コントロール パネル」 をクリックします。
2. 「アプリケーションの追加と削除」 を開きます。
3. ESSO-LM Agentを削除するには、「ESSO-LM」 を選択し、「削除」 をクリックします。次のダイアログ・ボックスが表示されます。



4. 「Yes」 をクリックします。
5. プロンプトに従ってESSO-LMをアンインストールします。
6. ESSO-LM Administrative Consoleをアンインストールするには、「ESSO-LM Administrative Console」 を選択し、「削除」 をクリックします。
7. 手順4および5を繰り返します。